

# あいらの歴史と物語

発行責任者：始良歴史ボランティア協会  
会長 橋木 雅晴  
編集者：広報部長 竹之下 洲一

連絡先：〒899-5421 鹿児島県始良市東餅田 498

## 山城跡で狼煙リレー



建昌城より岩剣城を望む

### 初めての狼煙リレー

松元 淳一

今回の狼煙リレーは、岩剣城をスタートして、建昌城、平山城（桜公園）、蒲生城の中世山城をつなぐ始良市では初めての企画でした。

このイベントは一年前の秋に企画され、昨年7月にはリハーサルが行われました。

始良市制発足記念行事の一環としての位置づけもあり、戦乱の世の武将たちの知恵のいくらかを学び、郷土の歴史にも触れることができました、とても楽しいイベントとなりました。

当初、加治木城も予定に入っていましたが、今回は諸事情により省かれ少し心残りでした。

企画担当者のイベント実施上の綿密な計画、関係公共機関との連携、狼煙用諸道具の準備と用具の取り扱い上の工夫、安全防火対策への配慮等、幅広く深みのある対応に感服しました。

戦乱の世と今は多方面において状況が異なり、この企画の意義や成果を軽々に評価したり、論じることはできませんが、今後の実施にあた

っては、さらに研究と工夫が必要であると考えたことでした。

### 狼煙リレーの感想

橋木 雅晴

平山城は、南西6kmに岩剣城を、同じく南西3kmに建昌城を、西6kmに蒲生城を見渡せる絶好の位置にあります。

7月末のリハーサルでは、各山城にかすかに白煙を確認できたため、11月の本番でも空気が澄み、はっきり見えるものと確信していました。しかし、建昌城以外の狼煙は残念ながら当日確認できませんでした。最大の原因は、市販の発炎筒を用いたため、煙の量が不足し、風の影響を強く受けて、煙が上空まで上昇せず、横に流され拡散したためと考えられます。

再チャレンジの際はドラム缶などを準備し、狼の糞に代わる生の杉葉などをたいて、狼煙をパワーアップしようと思います。



# 始良ガイド研修

## 重富地区

### 中津野説教所

坂元 清美

江戸時代、薩摩藩は一貫して一向宗を禁止して



中津野説教所

していました。一向宗は現在でも鹿児島県で信者の多い浄土真宗のことです。

信者たちは「南無阿弥陀仏」と称えることで自分の信仰の心を表していました。信者たちが禁止されているにも関わらず隠れて念仏を唱えていたので「隠れ念仏」といわれました。

中津野説教所は、加治木の性応寺に属し、現在は中津野公民館と合併しています。

いろいろな迫害にもめげず、ここには明治初期の立派な釈迦像が残されています。江戸時代中津野煙草講の人々は、禁制中は山中にある洞穴に拝みに行くときは、行きも帰りも柴を引きずって足跡を消していたと伝えられています。

現在は、中津野及び下増田を中心とする煙草講で、6班から各1名ずつの役員を選出し運営されているようです。法座は、加治木性応寺の導師を呼んで、毎月3日に行われています。

### 興玉神社

松下 澄行

祭神：興玉命・大鷦鷯命 (仁徳天皇)

例祭日：7月15日

創建：鎌倉時代の弘安5年(1282)



旧村社で船津の小尻掛にあります。

弘安5年5月、山城国の京都石清水八幡宮から平山了清が帖佐に下向したとき、別府川をさかのぼり船津に着船上陸しまし

た。そのとき船内に祭ってあった船玉神(船霊)を移して上九玉・下九玉神社を創建しました。

その後、この両社と春花にあった一之宮神社を、明治43年(1910)10月26日に合祀し、学校(旧船津小学校)北隣に移して、社名を興玉神社と改称しました。しかし昭和8年に道路拡張のため境内の一部が欠けることとなりました。

現在の地は小丘陵であったため、ここを開墾し、昭和9年(1934)4月に宝殿のほか全部を新築したと『始良町内の神社』にあります。

船玉神は、大海に出る船・運搬船などを守る神で、漁師や船乗りの間で深く信仰される神です。

### 原方にある石碑の話

竹之内 和仁

重富の原方地区の民家の庭に「平忠盛」と刻まれた高さ50cmほどの石碑があります。これは、寺師氏姓の帖佐の武士が、遠祖の供養塔として、幕末の頃建てたもので、他にも付近の畑の中に1基確認されています。



「平忠盛」の石碑

幕末の頃には一族の素性を権威あるものとするために、家系図などの作成が盛んに行われました。この石碑もそのようなものとして建てたものと思われる。

石碑に刻まれている「平忠盛」は、平安末期の武将清盛の父で、平家物語に登場する人物です。仁平3年(1153)58歳で没しています。

寺師氏と平家との関係は、鎌倉前期の頃帖佐を統治していた肥後房良西が、都から下向して地頭になったことから生じたものと思われる。

長い歴史の間に平家に関係する一族と、源氏に関係する島津氏との間で同化が行われ、先祖の素性もわからなくなっていたものを幕末に再確認したものと思われる。

その他の石碑として「平忠次」と刻まれた同じ格好をしたものが4~50m離れたところにあります。これには文化3年(1806)と年号が記してあります。ちょうど島津齊宣の時です。



## 帖佐地区

### 楠元の山の神・田の神

橋木 雅晴

高速道桜島 SA 北側の建昌城跡南麓に楠元の



楠元の山の神

の山があり、南へ数十m離れて田の神が鎮座しています。山の神は神像型座像で笏を持ち、衣冠束帯の姿で恐ろしい憤怒の形相をしています。田の神像は仏像型でお高祖頭巾冠りの姿でしたが、残念ながら顔面と頭部が破損しています。

この山の神と田の神一対の同質同型の石像は、春になると山の神が山から下りてきて、稲作を守護する田の神となり、秋の収穫が終わると山へ帰って山の神になるという、田の神の去来信仰を裏付ける貴重な文化財です。二体の石像は正徳2年(1712)に造立され、田の神像は県内で三番目に古く、建立者は二体とも帖佐郷士6名と門百姓6名が台座に刻まれています。先頭に刻まれた山路後藤兵衛は、島津義弘に殉死した13名中に見える同姓の武士の子孫と思われれます。また二番目に刻まれた宇都宮佐左衛門は、高樋宇都宮文書から日向伊東氏没落後、島津義弘の家臣となり、後に帖佐高樋に移り住んだ元宮崎那賀城主の宇都宮氏の子孫であると思われれます。



楠元の田の神

### 大文字池・水神碑

松元 淳一

建昌城山麓や建昌城の西北面、さらに船津・春花・蒲生へと続く160m級の山の尾根伝いには、湧水や雨量の多い時期に出水する小川が散在します。

これらを利用した田畑灌漑用溜池を何カ所か確認できま

す。始良ニュータウン近くの森山池、建昌の大文字池、始良みさと台団地入り口に以前あった戸越池



大文字池

(現造成宅地)、船津下の下池、船津上の梅公大池とサカ見の池、春花の春花池と奥地の無名の池、蒲生早馬の嶽友池などがあります。

大文字池の面積は約1.6haで、池の中では一番広いようです。事前探訪の時、稲の収穫は終わっていましたが、水が池全面に満々と貯えられて水量の豊富さを感じさせられました。池を登った堤防のところに水神碑が建っています。文政13年(1830)閏3月28日(庚寅)に

建立されたものです。碑文には見賦郡奉行・見賦郡地方検者・普請方郡奉行見習・地方検者など藩庁の農政役人や郷士年寄・郡見廻・用水掛・庄屋などの帖佐郷の御飯屋役人ほか、大工・石工・名主・社司・指南人・



水神碑

用水下役などの記載が見えます。藩や郷の農政役人の指導や監督のもと綿密な計画立案や設計にもとづいて大がかりな工事が行われ、完成後には以後の維持管理などの綿密な指導を含めた関係者による竣工を喜ぶ盛大な行事もあったことがうかがえます。

現代の重機使用の土木工事に比べて、当時この種の工事は大変な大工事でしたから、きっと村人総出で一代工事にあたったことでしょう。完成した池から水がとうとうと田に流れ、耕地(水田)が拡大していく様子を目の当たりにして、人々の生活には希望や意欲が膨らんだことであろうと推測することでした。



## 始良市歴史民俗資料館所蔵品紹介

### 鎖帷子 (クサリカタビラ)

松元 淳一

始良市歴史民俗資料館の夏季特別展では、旧帖佐郷の修験者・米良家に伝わる宝物約40点が展示・初公開されました。



鎖帷子

江戸時代になって、初め孫の島津忠広(初代藩主家久4男)、後その家臣の米良存良坊が譲り受けて、花園寺として守られてきました。米良家に伝世した重宝類や貴重な古文書、信仰に因む護符やお守り札など古い時代の祈りに関わるものが紹介され驚きとともに深く感動させられました。

今回の「修験者・米良家の宝物展」で興味を抱かせられた鎖帷子について調べてみました。

『有職故実大辞典』には、「鎖帷子は、要害(防護・用心)のための鎖入りの着籠(込)みの服。本来は鎖を添付した布地の帷子をいう」「鎌倉時代の末から鎧の下に用いられているが、近世は非常の際の護身用として衣類の下に用いることが多い」などと解説されています。

米良家の鎖帷子が、いつごろのものか不明です。細い鎖をつなぎ合わせて麻製の衣服(襦袢・下着)に綴じ付けられていましたが、あちこちにやぶれが見られ、ほとんど残っていません。鎖の造りを細かくみますと、頭部(頭巾状)部と胴体部・袖部は南蛮鎖、腰部は格子鎖の編み方で仕上げられているようです。刀や槍の疵痕らしきものが残ることから、実際に鎧や衣服の下に着込んで、実戦に使用していたものとも想像されます。

「歴史館収蔵品」のこの鎖帷子について、今後さらに精密な調査・解明がなされることを期待しています。

ところで、帷子は、本来は絹や麻の単衣の衣服をいい、5月5日の端午から8月晦日までを着用の時節としていたようです。

文禄4年(1595)島津義弘の帖佐入りとともに、<sup>かんきんじょう</sup>屋形内に看経所は設けられました。

江戸時代になって、初め孫の島津忠広(初代藩主家久4男)、後その家臣の米

## 始郷(あいきょう)

### お手玉遊び

坂元 清美

皆さんはお手玉で遊んだことがありますか。ほとんどないですね。お手玉を手にするのは運動会の玉入れ競争ぐらいです。お手玉の歴史は古く古代エジプトでも使われていたそうです。

始良市には公民館講座「健康お手玉教室」が開かれています。講師は山本先生です。右手や左手で2個を操ったり、3個・4個を操ったり、お手玉にゴムをつけてヨーヨーにして技能を積んだりしています。

### 初夢

濱口 純則

夢の中であろう。場所は船津の温泉が湧き出ている川原である。時代は古代、時期は12月31日の夕方。温泉の中には柳ガ迫役所の役人、外園集落の人々、宮田ヶ岡の瓦造りの職人など、髪型や話方は違えども声高に今年のできごと、来年の夢を語りあっている。

遠来の客と温泉に行った時、あまりのこみ様であった。その時代にもう温泉が出ていたのであろうか・・・とふと思った。

## 平成24年度ボランティアガイド実施報告3

- ① 11/3 始良市重富小学校岩剣城跡めぐり  
(西田・藤崎)  
岩剣城跡→平松城跡→重富麓→紹隆寺墓地
- ② 11/8 伊佐古文書研究会始良市史跡めぐり  
(橘木・竹之下)  
義弘帖佐屋形→宇都窯跡→加治木島津館跡→能仁寺墓地→精矛神社→日木山宝塔など
- ③ 11/10 鹿児島県青少年研修センター  
白銀坂歴史探訪ガイド  
(橘木・濱口・竹之内・藤崎)  
島津の森→J Tの森→布引の滝→白銀公園

## 編集後記

私たち始良歴史ボランティア協会では、本年度1年間旧始良町内の史跡の新たな掘り起こしに努めてまいりました。

今回の広報誌第18号および次号では、これらの研修成果の一部を報告します。

私たちの協会では、市内の史跡・文化財などの一般的な案内を無料で提供しています。諸グループや個人の方々のご活用をお待ちしています。

今後ともご支援をよろしくお願いします。